

平成28年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔外国語〕 種目〔英語〕

平成28年度から使用する中学校用教科書の採択について

教科 [外国語] 種目 [英語]

1 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、国際平和文化都市であり、外国から多くの人々が平和公園や原爆ドーム等を訪れる地域である。本市では、小学校第5学年から「聞くこと」「話すこと」を中心に学習する英語科を実施しており、中学校における外国語科への円滑な接続を図っている。中学校外国語科では、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能をバランスよく育成し、英語によるコミュニケーション能力の向上を図っている。
- 平成26年度の「基礎・基本」定着状況調査によると、本市の生徒の学力の実態として、コミュニケーションへの積極性はあるが、自分の気持ちや考えなどが正しく伝わるよう話す力は概ね身に付いているが、つながりのある英文を書く力や中心となる事柄を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを伝える英文を書くなどの技能を統合的に活用する力に課題がある。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<基礎・基本の定着>	① 言語に関する理解を深めるための工夫 ② 第1学年導入期における小学校英語科からの接続の工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	③ 学習意欲を高めるための工夫 ④ 積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量
<内容の表現・表記>	⑥ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト、写真等の活用や巻末資料の工夫 ⑦ 文字の大きさや配色等の工夫
<言語活動の充実>	⑧ 4技能を統合的に活用させる言語活動の工夫

3 各教科書の特徴及び意見

東京書籍

1 基礎・基本の定着

(1) 言語に関する理解を深めるための工夫

- 基本文を本文の後に示しており、主に本文で扱った英文で、既習事項と対比して示している。
- 各学年の主要な文法事項に絞って、「まとめと練習」に示し、各ページの最後に練習問題を設けている。
- 巻末資料「基本文一覧」で、各学年の基本文を英語と日本語で示している。また、第3学年は、第1、2学年の基本文も英語で示している。
- 「学び方コーナー」で英語を学習するための方法やコツを示している。
- 第2、3学年の巻末資料「表現のまとめ」で、既習表現をカテゴリーに分けて示している。

(2) 第1学年導入期における小学校英語科からの接続の工夫

- 第1学年巻頭の「Hi English」で、小学校で慣れ親しんだ身の周りの単語や簡単な会話表現などを扱い、「Unit0」でアルファベットを扱っている。
- 第1学年巻末の「英語の音とつづり」で、音とつづりの関係などを示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 学習意欲を高めるための工夫

- 各単元のパートごとの目標と各単元末の「Action」(第1学年は各パートのみ)を、「目標：～できる」というCAN-DOの形で、各単元の冒頭にまとめて示している。
- 日常生活・風俗習慣や自然科学など、多様な題材を取り上げている。第3学年では、ヒロシマの平和を題材とした物語「A Mother's Lullaby」を扱っている。

(2) 積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する工夫

- 「Presentation」で、町紹介や日本文化紹介など、テーマに沿って原稿を書いて発表するなどの自己表現活動を設けている。
- 各単元末に「Daily Scene」を位置付け、様々な日常場面を設定し、生徒が考えて「話す」、「書く」活動を設けている。
- 第1学年の巻頭で、生徒が使えるクラスルームイングリッシュを3示している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元・題材や資料等の配列・分量

- 第1学年は、be動詞(am/are/is)から始まり、一般動詞過去形(不規則動詞)まで扱っている。
- 第3学年で、受動態を扱っている。
- 複数(1～5)単元ごとに、既習の知識・技能を活用するタスク活動「Presentation」を配置している。
- 各単元毎に「話す」「書く」技能に特化した活動「Daily Scene」を配置している。
- 各学年の始めに、前学年までの復習・確認する「Unit0」を設定している。

4 内容の表現・表記

(1) 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト、写真等の活用や巻末資料の工夫

- 各学年巻末の「Bonus Word Box」に、「Presentation」の活動で活用できる表現を示している。
- 第3学年巻末に、「Further Reading」を設け、習熟の程度に応じて扱うことができる読み物教材を掲載している。

(2) 文字の大きさや配色等の工夫

- ユニバーサルデザインに配慮した、配色や文字、レイアウトにしている。

5 言語活動の充実

(1) 4技能を統合的に活用させる言語活動の工夫

- 「Presentation」で、発表する活動の過程に、4技能それぞれの活動を設けている。
- 第2、3学年の各単元末の「Read&Think」で、読んで考えたことを、話したり書いたりする統合的な活動を設けている。

意見

東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

東京書籍の教科書は、「学び方コーナー」で英語を学習するための方法やコツを示したり、第2、3学年の巻末資料「表現のまとめ」で、既習表現をカテゴリーに分けて示したりするなど、基礎・基本の定着のための工夫がある。

さらに、東京書籍の教科書の特徴である、各単元の目標を「目標：～できる」というCAN-DOの形で、各単元の冒頭にまとめて示していること、第2・3学年の各単元末の「Read&Think」で、読んで考えたことを、話したり書いたりする統合的な活動を設けていることは、思考力、判断力、表現力の育成をめざすひろしま型カリキュラムを推進している本市の取組や中心となる事柄を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを伝える英文を書くなどの技能を統合的に活用する力に課題がある本市生徒の状況に対応することができるものである。

1 基礎・基本の定着

(1) 言語に関する理解を深めるための工夫

- 基本文を本文の前に示しており、本文とは異なる文を用いた、対話形式で示している。
- 複数の単元ごとに文法事項をまとめ、「英語のしくみ」に示している。
- 巻末資料「Basic Dialog のまとめ」で、各学年の基本文を日本語と英語で示している。

(2) 第1学年導入期における小学校英語科からの接続の工夫

- 第1学年巻頭の「Let's Start」で、小学校で慣れ親しんだ身の周りの単語や簡単な会話表現などを扱い、「Program 1」で、アルファベットを扱っている。
- 第1学年巻末の「英語のつづりと発音」で、音とつづりの関係などを示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 学習意欲を高めるための工夫

- 各単元のパートごとの目標を、「～しよう」という形で、パートごとに示している。
- 全学年の巻末に、「英語で『できるようになったこと』リスト」を設け、3学年分の学習到達目標をまとめて、技能別に細かく示し、自己評価できるようにしている。
- 伝統文化や物語など、多様な題材を取り上げており、特に日本の伝統文化に関する題材を多く扱っている。第3学年の巻末資料「英語で料理」で、広島風お好み焼きの作り方を扱っている。

(2) 積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する工夫

- 「My Project」と第3学年の「Special Project」で、自己紹介やスピーチ、スキットなどの自己表現活動を設けている。
- 各学年7～11回の「POWER-UP」を位置付け、その中で、様々な日常場面を設定し、生徒が考えて「話す」、「書く」などの活動を設けている。
- 第2、3学年の巻頭で、生徒が使えるクラスルームイングリッシュを、第2学年6、第3学年2示している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元・題材や資料等の配列・分量

- 第1学年は、be 動詞 (am/are) から始まり、一般動詞の過去形 (不規則動詞) まで扱っている。
- 第2学年で、受動態の過去形の肯定文まで扱っている。
- 複数 (2～4) 単元ごとに、既習の知識・技能を活用するタスク活動「My Project」を配置している。
- 「聞く」「話す」「書く」技能のそれぞれに特化した活動「POWER-UP」を、年7～10回配置している。

4 内容の表現・表記

(1) 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト、写真等の活用や巻末資料の工夫

- 第1学年の巻末に、様々な場面のコミュニケーション活動で活用できる動詞を「アクションカード」として付している。
- 第2、3学年巻末に、「Extensive reading」を設け、習熟の程度に応じて扱うことができる読み物教材を掲載している。

(2) 文字の大きさや配色等の工夫

- ユニバーサルデザインに配慮した、配色や文字、レイアウトにしている。

5 言語活動の充実

(1) 4技能を統合的に活用させる言語活動の工夫

- 「My project」で、スピーチなどの活動の過程に、4技能それぞれの活動を設けている。

1 基礎・基本の定着

(1) 言語に関する理解を深めるための工夫

- 基本文を本文の後に示しており、主に本文で扱った英文で示している。
- 複数の単元ごとに文法事項をまとめ、「Check It Out」に示している。
- 巻末資料「目標文のまとめ」で、各学年の基本文を英語で示している。また、第2、3学年は、前年度までの基本文も英語で示している。

(2) 第1学年導入期における小学校英語科からの接続の工夫

- 第1学年巻頭の「Pre lesson」で、小学校で慣れ親しんだ表現や自己紹介を扱い、「Let's start」でアルファベットや身の回りの単語を扱っている。
- 第1学年巻末の「つづりと発音」で、音とつづりの関係などを示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 学習意欲を高めるための工夫

- 大単元 (Chapter) ごとの目標を、「～ができるようになります」という形で CAN-DO の形で、大単元の冒頭に示している。
- 日常生活・風俗習慣や地理・歴史など、多様な題材を取り上げている。

(2) 積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する工夫

- 「Chapter Project」と「Book Project」で、他者紹介、観光パンフレットの作成、スピーチなどの様々な自己表現活動を設けている。
- 各学年3回の「Talking Time」を位置付け、各日常場面を設定し、生徒が考えて「話す」活動を設けている。
- 第1学年の巻頭で、生徒が使えるクラスルームイングリッシュを12示している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元・題材や資料等の配列・分量

- 第1学年は、一般動詞から始まり、一般動詞の過去形 (不規則動詞) まで扱っている。
- 第3学年で受動態を扱っている。
- 大単元 (2～3単元) ごとに、既習の知識、技能を活用するタスク活動「Project」を配置している。
- 「話す」技能に特化した活動「Talking Time」を年3回、「読む」技能に特化した「Reading」を年2～3回配置している。
- 各学年の始めに、前学年の復習・確認する「Pre-lesson」を設定している。

4 内容の表現・表記

(1) 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト、写真等の活用や巻末資料の工夫

- 第2学年の巻末に、日本とアメリカのジェスチャーの違いがわかるイラストを示している。
- 第1学年の点字を題材とした単元で、実際の点字を指で感じるができる資料を付している。

(2) 文字の大きさや配色等の工夫

- ユニバーサルデザインに配慮した、配色や文字、レイアウトにしている。

5 言語活動の充実

(1) 4技能を統合的に活用させる言語活動の工夫

- 「Chapter Project」と「Book Project」で、スピーチなどの活動の過程に、4技能それぞれの活動を設けている。

1 基礎・基本の定着

(1) 言語に関する理解を深めるための工夫

- 基本文を本文の後に示しており、主に本文で扱った英文を、既習事項と対比して示している。
- 複数の単元ごとに文法事項をまとめ、「文法のまとめ」に示している。
- 巻末資料「基本文のまとめ」で、各学年の基本文を英語と日本語で示している。また、第2、3学年は、前年度までの基本文も英語で示している。
- 「For Self Study」で、英語を学習するための方法やコツを示している。

(2) 第1学年導入期における小学校英語科からの接続の工夫

- 第1学年巻頭の「Get ready」で、小学校で慣れ親しんだ身の周りの単語を用いた会話表現やアルファベットを扱っている。
- 第1学年巻末の「つづりと発音」で、音とつづりの関係などを示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 学習意欲を高めるための工夫

- 各単元で扱う題材や文法のポイント及び活動内容を、各単元の冒頭にまとめて示している。
- 各学年の巻末に、「What Can I Do?」を設け、それぞれの学年の学習到達目標を、技能別にCAN DOの形で示し、自己評価できるようにしている。
- 日常生活・風俗習慣や物語など、多様な題材を取り上げている。第3学年では、ヒロシマの平和を題材とした物語「The story of Sadako」と歌「ヒロシマの折鶴」を扱っている。

(2) 積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する工夫

- 「Project」で、大切なものや自分の町の紹介文を書いて発表するなどの自己表現活動を設けている。
- 単元末の「USE Speak」や各学年5～9回の「Let's talk」を位置付け、様々な日常場面を設定し、生徒が考えて「話す」活動を設けている。
- 第1学年の巻頭で、生徒が使えるクラスルームイングリッシュを16示している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元・題材や資料等の配列・分量

- 第1学年は、be動詞(am/are/is)から始まり、一般動詞過去形(不規則動詞)まで扱っている。
- 第2学年で、受動態の過去形の肯定文まで扱っている。
- 1～3単元ごとに、既習の知識、技能を活用するタスク活動「Project」を配置している。
- 複数(1、2)単元ごとに、「話す」「聞く」技能に特化した「Let's talk」、「Let's listen」を配置し、「読む」技能に特化した「Let's Read」を、年1～3回配置している。

4 内容の表現・表記

(1) 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト、写真等の活用や巻末資料の工夫

- 第1学年巻末の「Let's Play SUGOROKU!」で、既習の表現を活用する活動を設けている。
- 各学年巻末に「Further Reading」を設け、習熟の程度に応じて扱うことができる読み物教材を掲載している。
- 全学年の各単元の冒頭に、学習内容のイメージが掴めるような写真を示している。

(2) 文字の大きさや配色等の工夫

- ユニバーサルデザインに配慮した、配色や文字、レイアウトにしている。

5 言語活動の充実

(1) 4技能を統合的に活用させる言語活動の工夫

- 「Project」に、インタビューして得た情報を書いてまとめ、人に紹介するなどの、複数の技能を関連付けた統合的な活動を設けている。
- 各単元末の「USE Speak」、「USE write」で、読んだ内容を伝えるために要約するなどの統合的な活動を設けている。

1 基礎・基本の定着

(1) 言語に関する理解を深めるための工夫

- 基本文を本文の後に示しており、主に本文で扱った英文で示している。
- 日本語や既習の文法事項と比較できるよう、語順や修飾関係など文のしくみに着目し、関連のある文法事項を整理して「英語のしくみ」に示している。
- 巻末資料「重要構文復習リスト」で、各学年の基本文を英語と日本語で示している。また、第2、3学年は、前年度までの基本文も英語と日本語で示している。
- 「Listening Tips」「Conversation Tips」「Reading Tips」「Writing Tips」で、それぞれの技能を習得するための方法やコツを示し、練習問題を設けている。
- 各単元の基本表現を、会話や作文で繰り返し活用し、定着を図るための別冊「Essentials」を付している。

(2) 第1学年導入期における小学校英語科からの接続の工夫

- 第1学年巻頭の「Springboard」で、小学校で慣れ親しんだ身の周りの単語や表現やアルファベットを扱っている。
- 第1学年巻末の「つづりと発音」で、音とつづりの関係などを示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 学習意欲を高めるための工夫

- 各単元のパートごとの目標を、「目標：～できる」という CAN-DO の形で、パートごとに何ができるようになればよいか簡潔に示している。
- 「Project」や「Reading Lesson」、「Tips」などで、聞く、話す、読む、書くなどの各活動の目標を CAN-DO の形で示している。
- 全学年の巻末に、「CAN-DO 自己チェックリスト」を設け、3学年分の学習到達目標を、技能別、学年別に CAN-DO の形で示し、自己評価できるようにしている。また、それぞれの学習到達目標と単元等の関連箇所を示している。
- 日常生活・風俗習慣や地理・歴史、伝統文化など、多様な題材を取り上げている。

(2) 積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する工夫

- 「Project」で、インタビューなどで調査したことを、英字新聞やガイドブックにまとめ、発表することやスピーチなどの様々な自己表現活動を設けている。
- 各学年2～4回の「Time for a Skit」を位置付け、各日常場面を設定し、生徒が考えて「話す」活動を設けている。
- 第1学年の巻頭で、生徒が使えるクラスルームイングリッシュを6示している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元・題材や資料等の配列・分量

- 第1学年は、be 動詞 (am/are) から始まり、一般動詞過去形 (不規則動詞) の後、be 動詞の過去形 (was/were) まで扱っている。
- 第2学年で、受動態の過去形の疑問文まで扱っている。
- 複数 (2～3) 単元ごとに、既習の知識、技能を活用するタスク活動「Project」を配置している。
- 「読む」技能に特化した「Reading Lesson」を年に1～2回、「話す」技能に特化した活動「Time for a Skit」を年に3～4回配置している。

4 内容の表現・表記

(1) 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト、写真等の活用や巻末資料の工夫

- 第1学年の巻末に、アルファベットの復習ができる折り込み資料「キーボード」を付している。
- 第2、3学年巻末に、「Optional Reading」を設け、習熟の程度に応じて扱うことができる読み物教材を掲載している。
- 第1学年の日本の文化を題材とした単元で、本文内容の理解を助ける、英文で書かれた日本の漫画本の写真を示している。

(2) 文字の大きさや配色等の工夫

- ユニバーサルデザインに配慮した、配色や文字、レイアウトにしている。

5 言語活動の充実

(1) 4技能を統合的に活用させる言語活動の工夫

- 「Project」に、インタビューして得た情報を書いてまとめ、英語で発表するなどの、複数の技能を関連付けた統合的な活動を設けている。
- 各単元末の「JUMP Task」で、インタビューしたことをレポートにまとめて発表するなどの統合的な活動を設けている。

意見

教育出版の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

教育出版の教科書の特徴である、各単元の目標を CAN-DO の形で、何ができるようになればよいか簡潔に示していること、特設ページの、聞く、話す、読む、書くなどの各活動の目標を CAN-DO の形で示していること、全学年の巻末に、3 学年分の学習到達目標を、技能別、学年別に CAN-DO の形で示し、自己評価できるようにするとともに、それぞれの学習到達目標と単元等の関連箇所を示していること、特設ページで、調査したことを英字新聞やガイドブックにまとめるなど様々な自己表現活動を設けていること、英語でインタビューして得た情報を書いてまとめ、英語で発表するなど、複数の技能を関連付けた統合的な活動を設定していること、各単元末の「JUMP Task」で、インタビューしたことをレポートにまとめて発表するなどの統合的な活動を設けていることは、思考力、判断力、表現力の育成をめざすひろしま型カリキュラムを推進している本市の取組やつながりのある英文を書く力や中心となる事柄を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを伝える英文を書くなどの技能を統合的に活用する力に課題がある本市生徒の状況により対応することができるものである。

1 基礎・基本の定着

(1) 言語に関する理解を深めるための工夫

- 基本文を本文の後に示しており、主に本文で扱った英文で示している。
- 複数の単元ごとに文法事項をまとめ、「Language Focus」に示している。
- 巻末資料「基本文一覧」で、各学年の基本文を英語と日本語で示している。また、第2、3学年は、前年度までの基本文も英語と日本語で示している。
- 「Your Coach」で、英語を学習するための方法やコツを示している。

(2) 第1学年導入期における小学校英語科からの接続の工夫

- 第1学年巻頭の「Let's Enjoy English!」で、小学校で慣れ親しんだ身近な表現や単語やアルファベット、身の周りの単語を扱っている。
- 第1学年巻末の「音声のまとめ」で、音とつづりの関係などを示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 学習意欲を高めるための工夫

- 各単元のパートごとの目標を、「目標：～できる」という CAN-DO の形で、各単元の冒頭にまとめて示している。
- 「Go For it」で、活動の目標を CAN-DO の形で示している。
- 日常生活・風俗習慣など、多様な題材を取り上げている

(2) 積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する工夫

- 「Go for it!」で、人物紹介のスピーチや職場体験の報告、ディスカッションなどの自己表現活動を設けている。
- 各学年2～5回の「Skit time」を位置付け、各日常場面を設定し、生徒が考えて「話す」活動を設けている。
- 全学年の巻頭や巻末で、生徒が使えるクラスルームイングリッシュを、第1学年5、第2学年9、第3学年16示している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元・題材や資料等の配列・分量

- 第1学年は、be 動詞 (am/are/is) から始まり、一般動詞過去形 (不規則動詞) まで扱っている。
- 第2学年で、受動態の過去形の肯定文までを扱っている。
- 複数 (1～4) 単元ごとに、既習の知識、技能を活用するタスク活動「Go for it」を配置している。
- 「読む」技能に特化した「Let's read」を年2～3回配置している。

4 内容の表現・表記

(1) 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト、写真等の活用や巻末資料の工夫

- 各学年巻末の「情報ページ」に、「Try It!」で活用できるインフォメーションギャップの資料を掲載している。
- 各学年巻末に「Let's read more」を設け、習熟の程度に応じて扱うことができる読み物教材を掲載している。

(2) 文字の大きさや配色等の工夫

- ユニバーサルデザインに配慮した、配色や文字、レイアウトにしている。

5 言語活動の充実

(1) 4技能を統合的に活用させる言語活動の工夫

- 「Go for it」で、書いてまとめたり発表したりする活動の過程に、4技能それぞれの活動を設けている。